

平成 31 年度事業計画書
(平成 30 年 9 月 1 日～平成 31 年 8 月 31 日)

1. 会員について

会員数の推移は数年横ばいとなっているが、若い研究者の新規獲得と、既存の正会員には本会の多種多様な魅力や特典を周知し学会離れしないよう努める。それにはホームページに有用な情報を掲載し、会員以外にもわかりやすいサイトに刷新する。近年増加傾向にある留学生のために英語版の充実を図る。外部メディアなどを通して昨年度の新規事業である海外留学助成金の周知を行う。雑誌「生化学」や JB のオープンアクセスの記事を増やし、非会員や一般の方にも無料で読める記事を増やす。

2. 大会およびシンポジウムの開催

第 91 回大会を平成 30 年 9 月 24 日～26 日に、京都国際会館で開催する。また前年に引き続き JBS バイオフロンティアシンポジウムの企画も会員から公募する。

3. 支部活動

各支部主催の例会・シンポジウムはこれまで支部内だけで活動していたが、支部同士での相互交流を図り、若手研究者を巻き込みながら広く活動することとする。また、課題などの掘り起こしの場として会員同士の意見交換を行い、本部へ問題提起する。

4. 国際交流の推進

IUBMB、FAOBMB のエグゼクティブメンバーとして本会会員を派遣し協賛しあい、国際交流を推進する。日本の代表学会という特権を活かし、国際会議主催の賞などに推薦候補者を募り、交通費補助を支給し、積極的に国際会議、シンポジウムへの参加を促す。

5. 若手研究者の奨励

生化学若い研究者の会への「夏の学校」「シンポジウム」の活動支援を継続する。本会大会で発表した若手研究者への若手優秀発表賞を継続し、新たに FEBS

Letter Prize を設け、若い研究者を活気づけ、大会への参加も促す。

6. 会誌「生化学」の企画

支部選出委員の活動を通じ広い視野の内容や記事を掲載し、新企画を織り込む等内容を一層充実させる。特集号の発行にも努力する。外部企画協力委員からのプランも積極的に取り入れる。「生化学」電子版の機能をより充実させ利便性を図る。冊子版の発行部数は 1,000 冊/月号、隔月発行を予定している。

7. Journal of Biochemistry (JB) の強化と充実

投稿論文の増加と海外販売部数の増加を図る。投稿者にとってより良い Journal にすることを心がけ、またインパクトファクター上昇を目指す。JB シンポジウム企画として、大会参加の海外シンポジウム演者に招聘費を支給し、特集号を企画する。特集号はオープンアクセスとして誰でも読める。一般投稿者を対象に JB 論文賞を募る。冊子版の発行部数は 600 冊/月号、毎月発行を予定している。

8. 研究業績の顕彰

本会奨励賞および JB 論文賞の授与を継続して行う。公益財団法人倶進会による「柿内三郎記念賞」と「同奨励研究賞」は、候補者募集の周知をはかり、知名度を上げるよう努力をする。その他表彰および諸財団の研究助成事業に対し、本会会員より受賞候補者を積極的に推薦する。

9. 助成

昨年から開始した「早石修記念海外留学助成」を、広く周知することに努める。将来日本の生命科学に貢献できる優秀な人材に海外留学費用を助成するものである。資金源は小野薬品工業株式会社からの寄付により一人当たり 500 万円 年間 8 名までを 10 年間行う。